

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci U S A. 2006; 103: 10759-10764	ヒトPrP ¹²⁹ MVヘテロ接合体トランスジェニックマウスを作成し、患者由来の3つのPrNP129遺伝子型CJDプリオン の伝播性を調べた。vCJDプリオンは100%の感染率を示 し、15例中14例で脳内に4型PrP ^{Sc} が検出されたが、プリ オン病の臨床症状は見られず、非flood PrP ^{Sc} が脳 梁、脳幹、視床で観察された。またBSEプリオンの感染率 は少なかつた(41例中12例)。ヒトPrNP129ヘテロ接合体 はvCJDよりヒトvCJDに感染の感受性がより高かつ た。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Gen Virol. 2006; 87: 2433-2441	4-6月齢時にBSE感染脳1gまたは100gを経口投与した乳 牛を人工授精させ、出産後1週間以内と、授乳期間中10 週間間隔で搾乳した。乳サンプリングを遠心分離し、Bio-Rad Platelia ELISA法とSeprion-PAGE/Western blot法を用い て、BSEに関連する異常プリオンタンパクを分析した。そ の結果、ウシの乳の細胞分画から異常プリオンタンパク は検出されなかつた。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Can J Vet Res 2007; 71: 34-40	異常プリオン蛋白PrP ^{Sc} がコンポスト化により破壊される かを調べた。ファイバーグラスメッシュバッグにスクレー パーに自然感染したヒツジ由来の組織を入れ、コンポスト バイル内に108日(実験1)または148日間(実験2)埋めた ところ、実験1では組織残渣や周囲のおがくずからPrP ^{Sc} は検出されなかつた。実験2では5例中4例でPrP ^{Sc} が検 出された。組織残渣中の微生物16SリボソームDNAを調 べたところ、実験1では実験2より多量の微生物が含まれ ており、グアニンとシトシン含有量が高く、好熱性微生物 が優勢であった。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Eur J Lipid Sci Technol. 2006; 108: 812-826	プリオンで汚染した牛脂由来の脂肪酸およびグリセロ ルの安全性について検討した。リスク評価計算は、プリオ ン感染性の不活性化だけでなく、病理学的プリオン蛋白 の変性に関する定量的データに基づいて提供された。脂 質加水分解の基本的油脂化学過程の産業的条件は、 TSE汚染リスクを容認できるほど最小に減らすための効 果的な手段といえる。産業的脂由来製品はすべて、そ の起源にかかわらず、安全とみなすことができる。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	BRAIN MEDICAL 2006; 18: 371-376	BSEの発生状況は、今までの発生総数が125例以上の国 では減少傾向にあるが、日本など低発生国では2005年に 発生が増加がみられている。新たな問題として、非定型 BSEが世界各国で検出されている。また特定危険部位以 外の組織でプリオンが確認されている。慢性消耗病 (CWD)はシカのプリオン病であり、自然状態で水平感染を 起こし、伝播を阻止することは不可能に近い。しかし、シカ とヒトとの間ではかなり大きな種の壁があることが示唆さ れている。